

## AI インクルージョン推進会議

### 第4回

### 議事概要

#### 1. 日時

平成31年4月24日（水）15:00～17:00

#### 2. 場所

中央合同庁舎第2号館 9階 総務省 第3特別会議室

#### 3. 出席者

##### (1) 構成員

北野座長、秋山構成員、ビール構成員、梅屋構成員、スィンハ構成員、末松構成員、新居構成員、増島構成員

##### (2) 総務省

赤澤大臣官房審議官、櫻井情報流通行政局情報流通振興課企画官、井上情報通信政策研究所長、小川情報通信政策研究所調査研究部主任研究官

##### (3) オブザーバー

総務省国際戦略局技術政策課、総務省自治行政局地域力創造グループ地域政策課、観光庁参事官（外客受入担当）

#### 4. 議事概要

##### (1) 有識者からの発表

- 日本での生活経験について（株式会社小西美術工藝社アトキンソン代表取締役社長）

（概要）日本は観光戦略を実行し、訪日外国人数は増えたが、課題は観光消費額の伸びが低いこと。民間の課題と言えるが、原因の一つは情報発信のコンテンツが潜在的な魅力を整備していないことにある。多言語対応も、日本語を英語に直訳しても外国人に内容が伝わらないことが多い。

観光分野に限らず全般的な問題として、日本で問題解決のための技術の活用が遅れていることが、生産性の改善が進まない要因になっている。背景には、中小企業が活用しようとする意識に乏しいこと、中小企業の集約が遅れているという産業構造上の問題がある。この解決がなければ、世界 28 位の生産性は向上しないと思う。

##### 【北野座長】

- ・ 生産性を向上させる方策はどのようなものか。

##### 【アトキンソン氏】

- ・ 政府が最低賃金を毎年、継続的に上昇させていく必要があると考える。企業は生産性向上と賃金据え置きを両立させようとしている。

##### (2) 構成員からの発表

- 優秀な海外人材を日本にどうやってアピールし、満足させるのか（スィンハ構成員）

（概要）優秀な海外人材は、国際的なキャリア、高収入、グローバルな社会貢献の機会を求めて転職する。日本企業は英語対応や成長性が乏しいイメージがある。日本がそうした人材にアピールできる強みは、国際社会で国として信頼されていること、低利融資できる資金や技術力を持っていること、勤勉・正直で環境に対する責任感が強い国民性を背景として治安・健康面等で社会的に安定しているロールモデルであること等がある。

グローバルな社会貢献の機会を提供できるような国際プロジェクトが優秀な人材誘致のために重要であると考え。例えば、サイバーセキュリティやデータガバナンス、通信機器の開発・製造、産官学連携や投資ファンド等。

##### 【北野座長】

- ・ 日印の関係はどのような段階にあるか。

##### 【スィンハ構成員】

- ・日本で働きたいと思うインド人材は以前より増加し、現在日本に約3万人がいる。但し在外インド人全人口3,000万人以上のうち、シンガポールは60万人以上。

【北野座長】

- ・外国人材が日本で一番困っていることは何か。

【スィンハ構成員】

- ・優秀な人材が能力を活かせる仕事をさせてもらいづらいことがある。また、留学生の就職活動支援がうまくいかず就職後に失望して帰国した例もある。

【末松構成員】

- ・企業の経営者として、他国との人材獲得競争を実感している。

【ビール構成員】

- ・日本の大学から、外国人の優秀な研究者を紹介してほしいという依頼を受けるが、募集時点で報酬が明確でなかったり、その大学で優秀な研究者が働くメリットを示せなかったりする大学が多い。

【北野座長】

- ・政府におけるAI関連政策の検討において、AI技術等の高度人材の育成目標や国際的な人的ネットワークの構築等、人材面での課題意識は共有されている。しかし、成長スピードや実現性の面で容易ではない。

(3)事務局からの説明

- 事務局より、課題解決のための「プロジェクト(案)」について資料2に基づき説明が行われた

(4)意見交換

【秋山構成員】

- ・特に人材の活動履歴のサーティフィケーションの仕組みは有望であると考ええる。例えば学習履歴、スキルや業務経験を転職もしくは帰国後キャリアに生かせるエビデンスになると良い。データ提供者を増やし続け、プロジェクトで整備するツールやマッチングの仕組みが利用され続けるようするための検討が必要。
- ・生活に関わる用語の標準化を官民で進めていくことも有意義と考える。
- ・ここをこう改善すれば、標準的なシステムとして横展開や幅広く適用可能ではないか、といったことを検証できる方法・観点を必ず入れて欲しい。

【ビール構成員】

- ・日本でLinkedInのような既存のSNSがマッチングのために使われていない

要因を分析することも、プロジェクトで扱うシステムの普及をはかる上で重要である。

#### 【梅屋構成員】

- ・プロジェクトは「目に見える成果」と「課題の見える化」を目指すべき。マッチングサポートでは、特にマッチングに至らなかったケースに着目した分析も行うことが重要である。
- ・多言語環境とワンストップサービスの実現では、コミュニケーションの壁を低くすることからスタートし、外国人をサポートすると言ったメッセージを送るべき。また、サービス内容の充実のため、手続きで支障をきたしたケースに着目した分析も行っておくことが重要である。

#### 【スィンハ構成員】

- ・日本においてマッチングサービスが普及しない背景には、個人情報の公開を好まない国民性が関係しているのではないか。
- ・プロジェクト実施の際の官民の役割分担の在り方を検討する際には、インドにおける官民協力も参考になると考える。

#### 【末松構成員】

- ・マッチングについては、雇用契約の締結に関する課題も検討すべき。外国人労働者について、人権問題になるリスクもしっかり説明した上で、企業向けにしっかりしたフォーマットを提供することで企業も守っていけるようなかたちになれば良い。
- ・多言語翻訳については、より重要な翻訳対象を絞り込むことが有効と考える。

#### 【新居構成員】

- ・マッチングは、得意な民間企業に大きな役割を担ってもらい、電気代支払いの手続きをはじめとした生活支援等、民間だけではやりづらく政府の役割が重要だと考えている分野についてプロジェクトの重点をおくことが意義深いと感じる。

#### 【増島構成員】

- ・マッチングは、民間等との役割分担を検討する必要があるが、人材の活動履歴のサーティフィケーションによる信頼醸成の仕組みは良いと思う。
- ・国土交通省が始めている労働者にカードを配りデータを蓄積していく「建設キャリアアップシステム」は仕事の履歴を残す仕組みとして参考にすべきと考える。省庁間をまたいだインクルーシブな取り組みにも期待したい。
- ・翻訳ツール等の配布についても、民間との協業で官民が win-win になるようなプロジェクトを検討することが重要であると考えている。

### 【北野座長】

- ・ 外国人が関わるインクルージョンの根本的な課題解決のためには、法的・社会的な検討も必要かもしれないが、AI 等技術を活用して対応できることも十分あるはずなので、プロジェクト案をとりまとめたい。
- ・ マッチングにおけるブロックチェーンの活用でコストが抑えられるかどうかは検証が必要だが、データが改竄されづらくなることは確かであり重要なポイントである。セキュアである点を押し出して行くべき。
- ・ マッチングは、留学生マッチングの専門事業者等の意見を聞くとともに、雇用契約のひな形等を掲載して契約の透明性確保を図ることも、検討の余地があると考え。賃金はコンペティションなので、きちんと高いところとマッチングできる、という工夫もあれば良い。
- ・ 我が国では NICT が日本語を中心とした多言語翻訳を長年研究してきたので、多様なアジア言語の多言語翻訳技術において世界一になって欲しい。その上で、日本がアジア言語の多言語翻訳の標準化における国際的イニシアチブをとっていく必要があるのではないか。
- ・ 具体的なプロジェクト案は、設計の細部やツールやシステムの維持、運用管理方法まで更に検討が必要。その前提として、政府と民間が各々担う役割を明確にすることが重要である。例えば、信頼性の担保は政府が中心となって担い、マッチングは民間事業者が中心となって担うことの意義を検討する必要がある。
- ・ 既存のプラットフォームも参考にして、人材と雇用者の信頼醸成の役割を政府が担いつつ、民間がデータ活用しやすくなるような API の提供も検討すべきと考える。翻訳技術については NICT 等の意見も参考にする必要がある。
- ・ プロジェクト案については、座長と事務局に再検討を一旦一任していただき、その結果を構成員に共有したい。
- ・ 本推進会議における次のケーススタディは「地方」として、過疎地域から都市部まで幅広く、異なる現状と課題を整理して AI 等技術を活用したインクルージョンのありかたを検討していきたい。